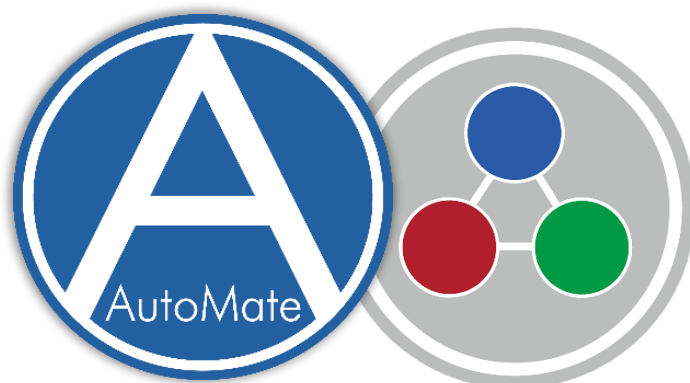


AutoMate リリースノート

【23.1.0】



三和コムテック株式会社



作成日：2024/02/29

更新日：2024/03/13

空白のページです

目次

1. はじめに.....	4
2. AutoMate 23.1.0 リリースノート	4

1. はじめに

本書は AutoMate ver.23.1.0 の変更箇所について、リリースノートとして記載しています。

2. AutoMate 23.1.0 リリースノート

【重要】

- ・ 本ドキュメント内ではデスクトップ版は AutoMate Desktop、サーバー版 (Enterprise、Plus/Ultimate) は AutoMate と記述します。
- ・ AutoMate Desktop 2023 または AutoMate 2023 をインストールする前に、Windows のバージョンが .NET Framework 4.8 と互換性があることを確認してください。詳細は .NET Framework のシステム要件 (<https://learn.microsoft.com/en-us/dotnet/framework/get-started/system-requirements>) を参照してください。
- ・ バージョン 11.7.1 の時点で、AutoMate Plus/Ultimate は 64bit インストーラーとしてのみ利用可能です。

【バージョン 23.1 における既知の不具合】

- ・ AutoMate の「HTTP」アクションを使用して API 経由でファイルをアップロードする際に、フォルダやファイル名等にダブルバイト文字を含むファイルのアップロードができない事象が確認されました。同事象は 22.1 でも確認されておりますが、22.1 は修正パッチが発行されています。23.1 用のパッチを製品開発元にて準備中です。影響の大きいユーザー様におかれましては、パッチまたは次のリリースを待つことをご検討いただくようお願いいたします。
→2024/3/12 に修正パッチが発行されました。インストール時には修正パッチを適用してください。

【新機能 AutoMate Desktop/AutoMate 共通】

- ・ ユーザーインターフェースの強化
 - AutoMate Plus/Ultimate は AutoMate に名前変更されました。
 - AutoMate および AutoMate Desktop のユーザーインターフェースと会社ロゴのブランドを HelpSystems から Fortra に変更しました。
 - AutoMate のユーザーインターフェースが更新され、ユーザー エクスペリエンスが向上しました。
 - AutoMate Desktop のユーザーインターフェースに AutoMate Desktop 製品名が表示されるようになりました。
 - ダッシュボード機能は AutoMate から削除されました。

【新機能 AutoMate のみ】

- ・ カスタムアクション
 - Fortra によって作成されたものとまったく同じように外観および機能する独自のアクションを作成できます。独自のアクション アイコンと、テキストボックス、ラジオボタン、ドロップダウンリストなどのコントロールを各アクションに追加して、自動化されたタスクを実行するために必要な柔軟性を提供できます。**※Windows11 では使用できません**
- ・ パスワードの複雑さの管理
 - パスワードの長さ、必要な文字タイプ、パスワードの有効期限、およびパスワードの再利用を指定することにより、AutoMate ユーザーのパスワード ポリシーを設定できます。

【機能強化】

- ・ AutoMate ユーザーは、資格情報を検証するために Active Directory/LDAP への SSL/TLS で保護された接続を使用することをオプトインできるようになりました。
- ・ AutoMate ユーザーは、複数のドメインにわたって Active Directory/LDAP 資格情報を検証できるようになりました。
- ・ AutoMate 管理者は、各ユーザーの RESTful API キーを管理できるようになりました。
- ・ AutoMate RESTful API は、API キートークンによる Bearer 認証をサポートするようになりました。
- ・ Azure Storage アクションは、AutoMate の資格情報機能をサポートするようになりました。
- ・ E メール アクションは、AutoMate の資格情報機能をサポートするようになりました。
- ・ Exchange アクションは、AutoMate の資格情報機能をサポートするようになりました。
- ・ ネットワーク アクションは、AutoMate の資格情報機能をサポートするようになりました。
- ・ サービス アクションは、AutoMate の認証情報機能をサポートするようになりました。
- ・ AutoMate ユーザーは、管理者または別のユーザーによってパスワードが変更された場合、すべてのアクティブなセッションからログアウトされるようになりました。自分のパスワードを変更すると、現在のセッションを除くすべてのアクティブなセッションがログオフされます。
- ・ AutoMate および AutoMate Desktop の Google Chrome ドライバー更新メカニズムが更新され、Chrome 115 以降をサポートするようになりました。

【不具合修正】

- ・ サーバー上でワークフローやタスクを実行しても、過剰なガベージ コレクションが発生することがなくなりました。
- ・ Web ブラウザ アクションは、Microsoft Edge Web ブラウザの IE モードを適切にサポートするようになりました。
- ・ Web ブラウザ (テーブルの抽出) アクティビティのパフォーマンスが向上し、タスク中に実行速度が遅くなることはなくなりました。
- ・ Web ブラウザ (テーブルの抽出) アクティビティは、ネストされたテーブルを含むデータセットを正しくフォーマットするようになりました。
- ・ Web ブラウザ (テーブルの抽出) アクティビティでフレーム ID が正しく識別されるようになりました。
- ・ Web ブラウザ (値の設定) アクティビティは、古いテキストに新しいテキストを追加しなくなりました。
- ・ Web ブラウザ (値の取得) アクティビティは、value 属性ではなく値のテキストを正しく取得するようになりました。
- ・ Web ブラウザ (クリック) アクティビティが、リソースのアップロード ボタンと正しく対話するようになりました。
- ・ Web ブラウザ (クリック) アクティビティは、プログラムによるマウス クリックではなくマウスアクションをシミュレートすることにより、ボタン要素と正しく対話できるようになりました。
- ・ [SQL 接続] ウィンドウで、ウィンドウ内のボタンがダブルクリックされたとき、またはその他の操作が実行されたときに、サーバーまたはエージェントのプロパティ内の SQL 接続文字列やその他の機密情報が不適切に暗号化されなくなりました。
- ・ 同じ名前の SQL 列は、結合してデータセットに保存するときに一意に名前が変更されるようになりました。
- ・ 定数では、15 文字を超える数値が数式として表示されなくなりました。
- ・ 変数 (作成) アクティビティでは、エンジニアリング表記として 15 文字を超える数値が表示されなくなりました。
- ・ 複数の領域ヘッダーのみが選択されている場合、タスク ビルダーは [選択したステップの実行] オプションを正しく実行するようになりました。
- ・ JSON オブジェクト アクションは、タスク ビルダーの関数ではなくタスク全体に適切にスコープされるようになりました。
- ・ Null データベース値をデータセットと比較するときに、If アクションが失敗しなくなりました。
- ・ If アクションは負の数値を正しく評価するようになりました。
- ・ If アクションは、間違った式を評価するときに正しいエラー メッセージを表示するようになりました。

- Visual Basic の vbCrLf コマンドで、「変数または関数 "vbCrLf" が存在しません。」というメッセージが表示されなくなりました。
- Visual Basic の vbCrLf コマンドで、「変数または関数 "vbLf" が存在しません。」というメッセージが表示されなくなりました。
- IsDefined 関数は、データセットのプロパティをチェックするときに正しい結果を返すようになりました。
- GetVar および GetVarCount 拡張関数のヘルプ ページは、AutoMate および AutoMate Desktop ユーザー ガイドから削除されました。これらの拡張機能はどちらの製品でも使用できなくなりました。
- AutoMate Runtime では、有効な AutoMate Desktop ライセンス キーに対して「ライセンスがありません」と報告されなくなりました。
- グレゴリオ暦形式で記録された日付を含むログに対するレポートが適切に表示されるようになりました。
- データベース (ストアド プロシージャ) アクティビティは、DSN または同様のドライバーを使用して ODBC 経由で正しく実行されるようになりました。
- ファイル システム (CSV からデータセットへ) アクティビティは、カスタム列名とシステムのデフォルト列名を正しく比較するようになりました。
- ファイル システム (CSV からデータセットへ) アクティビティは、二重引用符で囲まれた 2 つ以上の値を含む列を正しく解析するようになりました。
- ファイル システム トリガーが AMTrigger 変数に適切に値を設定するようになりました。
- XML (保存) アクティビティは、ローカルのカスタム タスク関数変数に正しく書き込まれるようになりました。
- SharePoint (ファイルのダウンロード) アクティビティで、「ファイルはダウンロードされませんでした」の正しいコードが正しく表示されるようになりました。
- 圧縮 (Compress) アクティビティは、ファイル名に特殊文字を含むファイルを正しく zip 圧縮するようになりました。



お問い合わせはこちらまでご連絡ください。

Email : automate@sct.co.jp